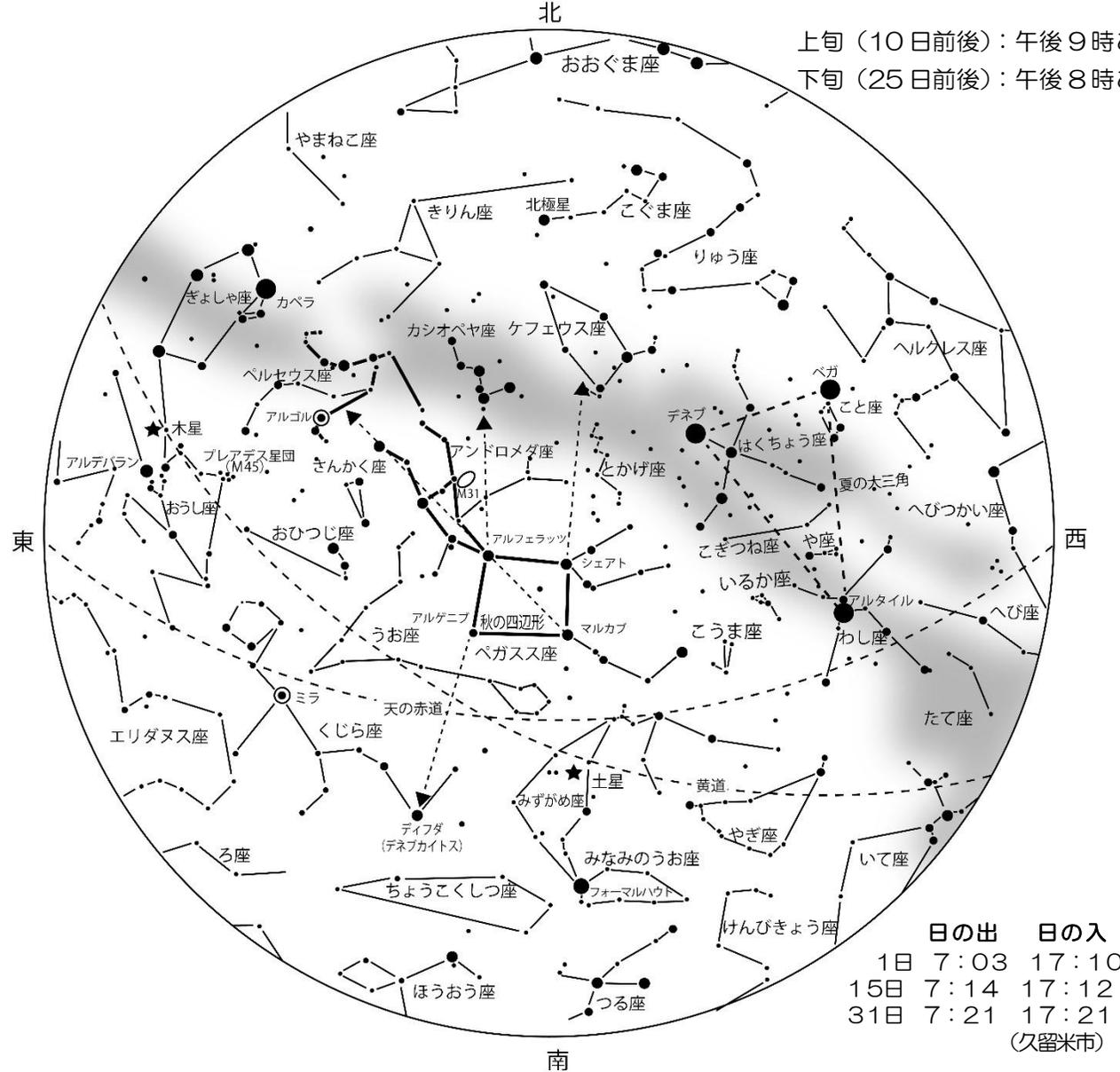


令和6年 12月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



上旬（10日前後）：午後9時ごろ
下旬（25日前後）：午後8時ごろ

★12月の星空案内

12月21日は冬至です。一年で一番昼が短く、夜が長い日です。夜が長い、つまり星を見られる時間が長いということです。天文好きな人にとっては、楽しい時期ですね。この時期の夜空は、南の空には見ごろを迎えた秋の星座、東の空には冬の星座が見えています。

秋の星座を見つけるには、四角形の星の並びを目印にペガサス座を探るところから始めましょう。アルフェラッツ・シェアト・マルカブ・アルゲニブの4つの星で作る四角形の星の並び『秋の四辺形』は、秋の星座探しのよい案内役になります。シェアトとマルカブを結んだ線を地平線の方へのばすと、土星が見つかります。土星を通り過ぎて、さらにのばすと、秋の夜空でたった一つの1等星フォーマルハウトを目印に、みなみのうお座を見つけることができます。

冬の星座探しの目印になるのは、東の空低いところに見える砂時計のような星の並び、オリオン座です。オリオン座は等間隔に並んだ3つの星『三ツ星』とそれを取り囲む4つの星でつくる砂時計のような星の並びが目印です。そして、オリオン座の三ツ星を結んだ線を北西にのばしていくと、1等星のアルデバランが見つかります。ここにはおうし座があります。アルデバランのすぐ近くには、M45 プリアデス星団というたくさんの星の集まりがあり、街明かりなどのない場所であれば、肉眼でも6～7個の星を見つけることができます。天気の良い日には、寒さ対策をして、星空を眺めてみてはいかがでしょうか？

【見ごろの惑星】（☆マークは、今月のおすすめです。）

水星（-0.3等前後）	：へびつかい座	観望に適さない。
☆金星（-4.3等前後）	：いて座→やぎ座	日の入り後、南西の空で輝く。
☆火星（-0.8等前後）	：かに座付近	真夜中、東から南東の高い空で輝く。
☆木星（-2.8等前後）	：おうし座付近	真夜中、南から西の空高くで輝く。
☆土星（1.0等前後）	：みずがめ座付近	宵の頃、南から南西の空で輝く。

注目の天文現象（12月）～月が接近する木星や火星を観察しよう～

12月の夜空では、一晩で金星、土星、木星、火星の4つの惑星を見ることができます。金星は日没後2時間くらい、西の空で輝く姿（宵の明星）を見ることができます。土星は宵の頃（18時～21時）に南～南西の空で見ることができます。木星は日の入り頃に東の空から昇り、一晩中見ることができ、火星は夜遅く東の空から昇ってきます。

特に今月は、月が木星や火星に接近する様子が見られます。14日には月が木星に近づきます。翌日が満月なので、月の光は明るいですが、木星は月の輝きに負けずに、肉眼でもはっきり見ることができるでしょう。18日には月が火星に近づきます。-0.9等の赤い火星も、明るい月の光に埋もれることなく輝いて見えます。火星はこの後、2025年1月12日の地球との最接近に向けて、ますます明るさを増していきます。12月末には、-1.2等に達します。明るさを増していく火星にもご注目ください。

木星や火星の周りには、冬の星々も見え、1等星も輝いています。木星や火星と1等星を比べてみると、色や明るさの違いを楽しむことができます。寒さ対策をして、ぜひ観察してみてください。

日の出	日の入
1日 7:03	17:10
15日 7:14	17:12
31日 7:21	17:21

(久留米市)

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
1	日	● 新月 (15:21)	15	日	○ 満月 (18:02)
9	月	☾ 上弦 (00:27)	21	土	冬至
14	土	ふたご座流星群が極大 (見頃は13日深夜から14日未明)	23	月	☾ 下弦 (07:18)
			31	火	● 新月 (07:27)